

## セミナールーム十訓より「予習ではなく復習しろ」

中学生は1学期の期末テストも終わり、通知表を待つばかりとなりました。テスト結果も通知表結果も出そろいましたら、またご報告したいと思います。

さて、今月も「セミナールーム十訓」の一つを解説したいと思います。今月は、標題にある「予習ではなく復習しろ」です。これは当塾の授業を受ける上での訓となっています。学校の授業につきましてはこの限りではありません。定期テスト前日にやっとテスト範囲までの授業を終わらせるという学校の授業に対しては予習が必要です。これを担っているのが塾です。あくまでもこの訓は“塾の授業に対して予習をする必要はないから、その分しっかり復習しなさい”と言っているものなのです。

当塾に通ってくれている塾生は、一を聞いて十を知る人間ではありません。そもそもそんな人間は塾に来る必要はありません。ほとんどの塾生は、一を聞いて一を知る人間です。まれに二を知る人もいますし、半分しか知れない人もいますが、普通は授業を聞いて、その内容を理解して帰る、ということになります。しかし、問題はその後です。塾としては、次の授業では次の内容を教えたいため、“今日教えたことは身につけてきて欲しい”と思って定着のために宿題を出します。普通の人間は何もしなければ翌日には習ったことの半分を忘れてしまうからです。さらに何もしなければ翌々日には80%忘れてしまうと言われていています。だから、授業があった日は、5分でも10分でも構いません。その日に習ったことを見直す時間を持って欲しいのです。

よくある話ですが、塾から帰って、そのかばんに次にさわるのは、その次の塾に行く日の直前であり、大慌てで宿題のみをやっつける……。当然習った正しいやり方もすっかり忘れ、調べ直す時間もなく自己流でやるものだから、結局まちがいで身につかない。授業を聞いたときには理解できていたのに、いつの間にかわからなくなっている……。間違い直しはたまる一方。これでは力もつかず、塾に通っている意味がありません。

先月の面談で、「子どもにその日塾で習ったことを話させるようにしています。」とおっしゃったお母さんがいらっしゃいました。すばらしく効果のあることだと思います。人は思い返すだけで記憶への定着度が高まるからです。中学生諸君、自分でやりましょうね。塾のあったその日に宿題まで済ませるのは時間的に無理かもしれません。せめて内容を思い返し、教科書、ワークをもう一度見直してから寝て下さい。それだけで格段に力が伸びますよ。